

# 山なみはるか

天龍小学校

## 秋にちなんだ行事で充実した日々です



朝起きると、外が霜で真っ白になっている日が出はじめました。山々が色とりどりに染まり、天龍村が美しく彩られる季節となっています。子どもたちは、玄関を出て立ち止まると、日だまりを探しひなたぼっこをするようになりました。9月下旬に刈り取った稲は、しっかりと日に干されて10月中旬に脱穀し、うるち米と餅米で70kg以上になり、食べられる時を待っています。夏の間緑の葉を這わせて畑中を浸食していたサツマイモは、今年は何の学年も大豊作で、子どもたちの顔より大きく

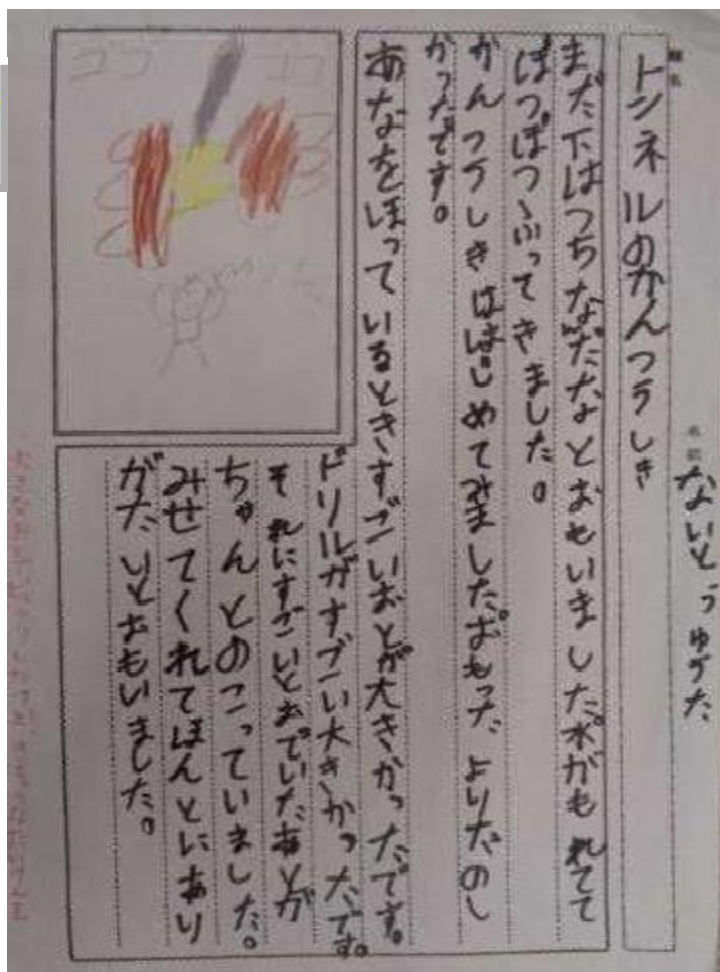
育ち、収穫時には「大きすぎて掘れない!」「重すぎて持てない!」と一苦労でした。

上は、10月27日の新体育館建設工事現場です。いつものクレーン車と違った車両は、生コンを流し込む車（の腕の部分）です。特殊車両を必要とするコンクリートを流し込む作業はある程度まとまった量と時間を必要とするため、現場の方々は、この日は朝早くから夜遅くまで一生懸命働いていました。ありがとうございました。

## 足瀬トンネル貫通式

10月13日木曜日、ヘルメットと長靴を装着し、2台のバスに分乗して全校で足瀬トンネルに向かいました。当然ですが全員、（職員も含め）貫通式は初体験です。村長さんの計らいで、貴重な現場に立ち会うことができました。

現場は暗く、ポコポコした壁に覆われ、紅白の幕で飾られていました。正面の壁をドリルで突くと、向こう側から光が差し込んできて、まさに、貫通の瞬間を目にしました。たくさんの関係者の方々の思いがその一突きに込められていたような気がしました。こちらが感謝する側なのに、「参加してくれてありがとうございます」と、たくさんのお土産もいただきました。冷たいトンネルの中がとても熱い場所に感じられました。



# 「天龍ならでは」の行事① ～ブッポウソウ巣箱はずし～



10月18日。3, 4, 5年生は朝から役場前に集合しました。4月に思いを乗せて設置した巣箱を回収する日です。板倉電設さん、役場の地域振興課の方々、ブッポウソウを守る会の盛さん、末広さん、川上さんに同行していただき、回収をはじめ、撮影や交通整理等にご協力いただきました。

設置した時と同じように、3年生は板倉電設さんにご協力いただき村内6カ所の橋に取り付けた巣箱を、4, 5年生は自分たちの手で取り付けた巣箱を

ひとりが高所作業車に乗るのですが、箱を外して降りてくると、下で待っていた子どもたちが「おかえり～」の声とともに箱のまわりに集まり、「見せて見せて!」「入ってる?」「わー使った跡がある!」「なんだこれ、茶碗のかけらが入っているよ」

「貝殻がある!」などなど、全員興味津々です。

2時間ほどかけて約30個の巣箱を回収して学校へ戻り、後半はひとつひとつ巣箱の中身を観察していきます。ひとりひとりがひとつずつ箱を担当し、蓋を開けて中身を取り出します。ピンセットを使って箱の中に入っていたものを種類ごとに分けていくのですが、まずは開けた瞬間に、設置時に敷き詰め たおがくずの色と同じかどうかでほしい「使った」



「使われていない」の判別がつかます。今年の特徴のひとつは、おがくずがきれいなのに卵の殻が入って

とです。これは、子育てをしようとしたブッポウソウが卵を産むところまでは成功したが、その後何らかの理由で子育てを放棄したものと思われる。今年はそのような箱が多かったように感じました。もうひとつの特徴は、なわばりがあるとされているブッポウソウが、同じ橋の上流と下流の両方に営巣していたということです。箱の入り口を反対方向へ向けておけば、両方に営巣することができると

は、ブッポウソウのなわばりは、箱が中心ではなく、箱が一番端にあるのではないかと予想できます。…いずれにしろ、今年なんと15箱にブッポウソウの営巣跡(途中放棄も含む)が確認されました。営巣率50%は、ここ数年で最高です。もしかしたら、村内のブッポウソウの生息数が増えてきているのかもしれない。この結果をもとに、来年どこへどのよう



巣箱調査シート (令和4年 10月調査)

記録者: \_\_\_\_\_

はずした場所: 平岡おがしばし下

集めたこと: たまごの殻があった。貝殻もたくさんあった。おがくずの量も多かった。おがくずの色も茶碗のかけらも入っていた。

この巣箱に入っていたのは・・・ ブッポウソウ 別の鳥 別の生き物 何も入っていない

# 「天龍ならでは」の行事① ～ズッポウソウ集箱はずし～

10月28日、恒例の「ふるさと大好き給食」が実施されました。給食のメニューは

- 五平餅（5年生が育てたうるち米）
- あまごの唐揚げ（向方村田養魚さんへ発注）
- やつがしらのみそ汁（ツメモガキから購入したやつがしら）
- お茶の葉ポン酢サラダ（村で育てているお茶の葉）
- ゆずミルクゼリー（ゆずすけで作っているゆずシロップ）



そして、この給食には、今回の五平餅づくりや普段の活動でお世話になった方々を招待しました。



いわゆる「半ごろし」（5年生）

つ形が違ってくるから不思議です。特に、お餅の上と下の部分を割り箸にきちんとつけないと、焼いたときにはがれて落ちてしまふんだと教わりました。また、今回のみそは、熊谷梅香さんの特

五平餅づくりは、8名のJA女性部の方々にお手伝いいただき、5年生が、自分たちが育てたうるち米を「つぶす」「成形」の工程を行い、その後1～4年生の子どもたちがそれぞれ、自分の五平餅を自分で焼いたりみそを塗ったりして参加しました。成形は、同じ形の木枠を使っ

ているはずなのに、どういうわけか、ひとりひとり少しずつ



木枠を焼いた成形（3年生）

製みそです。「同じ材料で同じ時間かけて作っても、あの味は梅ちゃんしか出せない」という秘伝の味です。おいしいにおいが漂ってきて、調理室は「おなかすいた～!」「早く食べたい!」の声でいっぱいになりました。各教室にお世話になった方々を招待し楽しく会食をした



焼き（3, 4年生）

後、普段なかなか言えない「ありがとう」の気持ちをお手紙に託してお渡ししました。小学生にとっては、伝統の食材づくりを学び、村の方々にお礼がてら交流できる貴重な機会となりましたが、参加された方から、「小学校の行

事だけれど、私たちも、村のベテランのみなさんから、五平餅の作り方を教わる貴重な機会でした。



梅ちゃんのみそ「塗り」（2年生）  
とうれしい感想をいただき

ました。お世話になっている方々へお礼となる小学校の行事が、村の方々のお役に立っているとは、想定外のありがたいお話でした。いつもお世話になってばかりですが、今後も小学生の学びにご協力をよろしくお願いいたします。



楽しく会食（1, 2年生）

# 秋の読書旬間によせて ～読み聞かせの大切さ～



10月24日から「秋の読書旬間」が行われています。図書委員による児童集会や、読書ボランティアの方々による本の読み聞かせ、担任以外の先生方による読み聞かせ、下沢洋子先生の読み聞かせ等、さまざまな形で本や読書に触れる機会をつくっています。そんな中、10月26日には、下沢洋子先生に来校いただき、恒例の読み聞かせが行われたのですが、今回は特別に、児童の下校後先生方対象の研修会も開いていただきました（上の写真）。下沢先生のお話は、現在もたくさんの読書ボランティアの方々とお仕事をされ、子育て中のお母様方とつながっているため説得力があり、実際に何冊も本の紹介や読み聞かせを交えてのお話だったので、子どもたちにことばを伝える仕事に就いている私たちにとって、とても興味深く、そして大切な内容ばかりでした。

よく、「誰もが持っている『読む力』『書く力』」と言われますが、実はこの2つは周囲の環境やその環境を作っている大人によってつけられていく後天的な力であり、放っておいて伸びるものではなく、小さい頃から「耳からの読書」「目からの読書」を繰り返し、ことばを習得していく中で語彙を増やし、使い方を覚えていくことで身についていくのだそうです。具体的には

## ①幼児期→耳からの読書を主に

耳で聞いて分かる言葉の数を増やす。話し言葉を拡充する時期

## ②小学校1, 2年→耳からの読書を主に

少しずつ目からの読書（目を働かせ、絵や文字を追っていく）を行う

## ③小学校3, 4, 5年生→活字を読むことに慣れていく

読書に興味を持ち、活字を読むことに慣れる時期

## ④小学校6年～中学→目からの読書を主に

掘り下げ読書の経験を積み、ものの見方や考え方に幅が出てくる



そのため、読み聞かせを行うときには、子どもが自分で選んで読む本とは別に、成長期に合わせて質の高いものを選び、意図的に新しい本に出会わせることが必要であること、また、新しい本との出会いが新しい語彙との出会いとなり、「読む力」「書く力」につながっていくことなどを学びました。

研修後は、下沢先生が紹介してくださった本の周りに先生方が集まり、本についてさらに詳しいことを尋ねたり、読み聞かせる

たりしていました。とても貴重な時間となりました。



# 学校からのお知らせ ～給食費値上げについて～

11月の献立表でもお知らせしましたが、最近の物価高騰の影響を受け、本校の給食費も値上げせざるを得ない状況となりました。今年度1食280円で賅っていましたが、10月から30円値上げし、1食310円とさせていただきます。天龍村にはこの状況をご理解いただき、値上げ後も給食費全額援助を継続していただけることになりました。調理場も、限られた予算の中、児童生徒のみならず、安全安心を考えたおいしい給食づくりに一生懸命取り組んでいます。それぞれの方々の、各方面からの支えで学校が成り立っています。感謝です。今後ともご協力よろしくお願いたします。